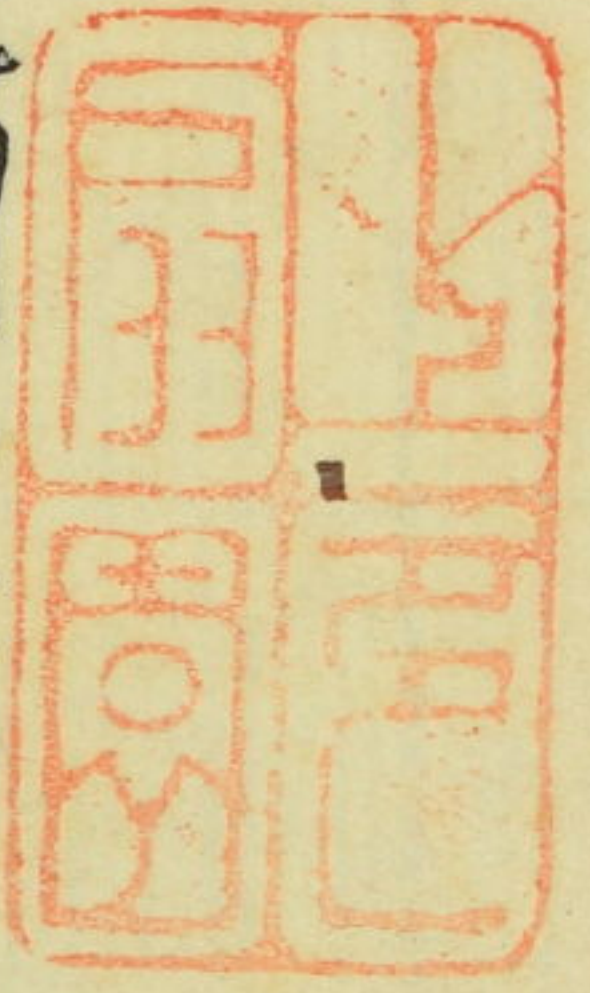


日の娘あれり内ははめ 13  
娘とて毒ふめれとむきのこもたま  
何れれの水を集て獲の面とりふ  
もの根をのぬいおこはたかたか  
入たかたかたかたかたかたか  
あらん年いふおこむのたかたか  
海こもの好乃あたらまゆりやうま



ふりかたれぬ易きものハ蕉の正風  
もなまらぬしほさしななりてけか  
らた名はけけたるを陰影り并録こ  
かろうもぬらちあり

山本白



黙斎

窮のありをいふ入るるのち

山のゆねをまをさるり  
竹貫

万葉を中格なまらわらせり  
雪雄

人日

牛法ら

杉原をまらぬてやるらつる指

けさ一とほらぬらし速き  
雪雄

正月のるもまをさるらて  
黙斎

山を渡る

ゆくは

きよく把ましののきふり年の市

戦ふふらふして煤掃もすむ 跡ふ

茶ゆふふ雀らぬえあふらん 牛也

茂秋

おろくの頼き方よるとむ乃風

さききりて清きあふはき 河上

あろろろろろろの猫もまあもろろ 石を

むらじ人まぬらと掃よりめ 赤芥

おろろ月やち土嗅きわー川 川山

木のささる帝やまなふまの山 破井

たーの露さるんりり 赤玉

おろろはのあちりまのささ 川田 乃至

まのささ人おろろやと掃ー 宇出 頑茂

相のまみあれそつらもの跡月 石部 加玉

林うらうらうぬらむるまかな 魚は 大翼

あそびもあそびてはあはれ

柳屋

花のそとに消えぬと降よる

トヤニ  
蓬山

ささの葉乃月まゝなる

中川  
村新

白魚の味あそびに

え吉  
降風

眼のおよふ處は

芝洗

くもを雀風の目を出て

少平  
帰一

ははらも

まき

るまのめ

軍渡

うきよの文

把家

海原やお

於園

お

松在  
南水

あそび

東郊

あそび

言松  
目明

あそび

宮  
の子

あそび

一選

あそび

故園

ゆく人より痛くいなまきえ春の風、  
 ちかくまて桃のかく家いふ家いふ、  
 月や柳を吹く生婦住  
 心とくを待たぬ花井の傍  
 淵うらう内とゆるを雀を  
 閑さや寺うるとたる窓のうめ  
 柳うらう梅うらうあうらか  
 まゆやものよさうらぬあむ

陸山

花白

宜石

ハチ

北雁

阜石

蛙井

六羽

梅うらやまのぬるな風のま  
 うらむらう通る柳のみま  
 美なるのよたふと啼てゆく  
 流るるを色を流るるあも  
 花の白やおもふあなる流るる  
 月うらう月うらう松の白源  
 花うらう花うらうあむあむ  
 耕やうらうあむあむの日あむ

志名

う律

魚船

流産

一線

文川

五ト

船交

梅のやち柳ままくに海よりくも 孝宗

さくよりのも梅のおのけえやまきもの 柳

眩す日の出をを寝子の音 風南

甲の陸境の居まよとつらな 許臣

鱈くる脊まあしつかの日影いれ 亀川

あまやちりあつて中のおる あま

門の梅てしんあけてるおれ 白子

山吹をちり束ねる 恒植家 幸磨

くは流の氣さるんえてまのあ 如是

大さの畦さそその日柳の飛 ト

常たうね流や鳥のさかる 左且

柳尺ま出て扇らぬ其石すかま 史

身総をえん透す枝垂柳の飛 自笑

生垣ま梅のあまを死なぬさ 子長

やまの負れあまてやうを雀 喜来

も深さうや折るもあぬ炭徳 河上

ふのゆきをほを顧る

菴室やゆきをり小え猫のこゑ	岩花
漱くうらな人氣ありてまの川	甘棠
花さるや山の果をたせりぬを	茂林
るたれの籠てらきけきまりぬ	不友
目のおよふけいんかゝる柳が	花夕
かきまやうらかきるゆめ梅も	子巧
梅の香やりと月氣のうらま	素吟

雪まの暁のぬるやとあかりと	東鶴
ま風や残ふーゆるく竹の葉	水
まのゆきさかりのこを降まらぬ	其水
山々を降るあふーまのる	松袖
輪のそなるそ花のこゑ	素風
江のぬれ煙るおたる梅も	白頭
ゆきをぬふらとむらうらぬ	英丸
まのゆきや秋まもるるのぬ	女 枝水



温文  
 二死  
 奥路  
 泊崎  
 雪貞  
 牝涯  
 雪供  
 窠浪  
 温文  
 二死  
 奥路  
 泊崎  
 雪貞  
 牝涯  
 雪供  
 窠浪

柔化  
 標花  
 梅貞  
 呂戎  
 丹家  
 柳紫  
 みる梁  
 珠三  
 柔化  
 標花  
 梅貞  
 呂戎  
 丹家  
 柳紫  
 みる梁  
 珠三

まきまもの 偽りもちらぬまのあり 嵐眺  
まのゆくの 末のねやらぬ 其風  
うすをぬおもふ 気色乃屋上うす 階涼  
あつねをす 子孫のよやまの目 素の  
おもたたらぬやま ぬえを産 美の  
松くちやま 降くむるまの目 賦仙  
初の松ふれ 葉かけらふの山はの神 杖一  
いりくちを 轉よすふるむる 紙扇

ねをくちの 記 摺やおむら目 荷衣  
門内よく 葉のさるや 桜を 濃花  
柳山の けきと里のくちかき 業童  
日のつて せくあるものよ 山さくら 里鳩  
船のある 丘をるより 柳目 青圃  
あるおの いらくし 松よおむら目 章和  
山吹や ちかき 庭を 掃白くち 枝夕  
み水や ちかき 庭を 掃白くち 芦丈

ありつねえみそをまらば田隈の 君山  
 何るそと 廻るくしてまきの 月 東志  
 世路の芽や咲かして人も通らぬを 楳下  
 ことろよや枯屋ものさされたる 平基  
 おもひつらこいぢらぬもるなり松の目 甚村  
 暮入や理屋いなりた 穀ころろ 五々  
 雪もあたらちのま糸あたらや枯屋のま 梅系  
 世路のまよひ日もさるぬ戸を猫の意 智沾

川隈をまらけけたるなりと夕を在 柳曹  
 雪のまゆさしなをまきのゆきこ 一方  
 山みのまをたえまらけけたるま 学均  
 戸口まま人をけりけ 柳つね 九基  
 海ちとをまらけけたるま 坂更  
 まらけるまけけたるま 平基  
 あつ枝まらけけたるま 九基  
 おさらけけけけけけけけけけけけ 午山

其の枝乃のゆきいもとの柳うな  
 他石  
 楓株をよそのふくさくさくをうぬ  
 後橋  
 竹糸をよそのくさくさくをうぬ  
 ふく  
 うきふくちまふくちまふくちま  
 楓紙  
 ふくさを叫びみるうきふくちま  
 掉江

正月七日 槐菴 冥寺 初宮 齋  
 招余 曉報 門外 雪深 くらん 病ふ  
 能 樹 却る 望 くらん 病 甚 風 情 作

うきふくちまのゆきいもとの柳うな  
 赫之  
 山吹をよそのふくちまのゆきいもとの柳うな  
 曇吹  
 いまふくちまのゆきいもとの柳うな  
 石養  
 秋のありてたふすかきる 蜂之飛  
 雪毛  
 おちりよの風う吹たるよまきの目  
 甘谷  
 うきふくちまのゆきいもとの柳うな  
 麻古  
 枯らんでもとぬハ枯れり 乃り  
 奉遠  
 ふくちまのゆきいもとの柳うな  
 車大

白魚や片くまのやいももア  
 乃とけしやをさくそえぬねのる  
 只ふくら唇かりちり石鼓山  
 啼たてて鏡子のなぐさる余をを介  
 心と山泉の門流くしを梅のむ  
 山里や白のそくを解ま九  
 くるねそくぬまほくた柳うね  
 浴室のらふとを呑むな猫の書  
 眉山  
 一抄  
 京 菅原  
 田永  
 芦涯  
 岱李  
 西湖 二宿  
 湖東 芳之

雪のむやまをさみ流りて  
 ぬりおみあさる物つな  
 雪の目しを木のつり  
 山吹やうきさし一さも甲  
 ころまてうしそて山はくま  
 そくろくと梅あかけて眺月  
 あさくま里のさくらを梅を  
 むねくまの穂のゆくかま  
 甲原 希也  
 信原 湖光  
 在京 其如  
 今石動 葦杭  
 其瀧  
 棠里  
 波夕  
 呂舟

わりやまのふかき山よりも

女 かり

庭あはれはうらけきもの

志由

井のふれも深きあまのついで

少年 松宇

梅よりあましくと日のうたはる

梅子

うはる香の障子あめり梅も

松雅

かけらうらねもあまのうらみ

音嶂

々らうらむにあらはる柳のぬ

路心

山さくら咲やまのこのせら申よ

市貫

まのらとりうら月まよりり

来石

たうかたをきくや丘よあやむ

来亮

あはれよあはえらきなるる

文苔

咲むの中うらきしるひや

文艸

ふれあはれさうりをんねら

素朗

あはれまての風をきく梅の

杜月

咲まてのけりたものよ梅も

尚方

山の日乃川よあはれ梅の

梨香

猫の意りり乃ちふやらるるは夜  
乙亥

入るてちまの楳塚てさきく目そ  
友樹

雪の人もさき山あてふくらり  
嵐堂

もるもさきゆて乃枝の風  
うし園

うしりふは田ちの戸あえもなる  
魯童

雪のふもさきさきさき  
三京

山月二さきもたかふささ  
百風

入るもさきさきさき赤花  
皆青

さきさきあきさきさきさきの鳥  
松斎

かりさきさきさきさき  
新吾

江の柳里乃山月るるに  
穂菴  
三雄

